

# 稲作情報 No.12

## 水稻生育・大豆管理

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会〔作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会〕

ハナエチゼンの現地の幼穂形成期は平年より3日早く、また高温では出穂までの期間が短くなる傾向があり、出穂も平年より早くなる見込みです。早く移植したものは、既に出穂期となっている圃場もあります。早生品種以外の品種は、おおむね幼穂形成期を迎えています。斑点米カメムシ類の注意報が発令されています。水田周辺雑草地のカメムシの生息数は、平年より多いです。

### 【水稻】

幼穂形成期となった品種は中干しをやめ、間断通水の水管理としましょう。また必要に応じて穂肥を実施しましょう。断続的な降雨により、長期間湛水となっていた圃場は、土壌が軟弱です。一度落水し、天気が回復し次第、間断通水としましょう。斑点米カメムシ類の多発を防ぐため、畦畔・大麦跡地の雑草地の草刈りの徹底や、病害虫の防除を適期に行いましょう。

### 【大豆】

天候や土壌の渇き具合を見ながら、遅れずに培土を実施しましょう。土壌が湿潤で培土ができない場合は、雑草の繁茂を抑えるため、除草剤の散布を優先させましょう。

### ○農業試験場の生育（7/12）

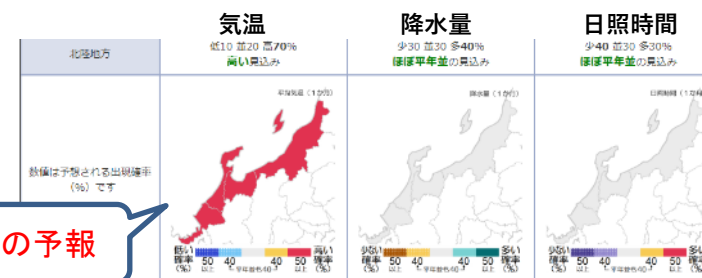


### ○いもち病の感染好適条件の発生状況

	三国	越廼	福井	勝山	大野	今庄	敦賀	美浜	小浜
7/6	—	—	—	—	—	○	—	—	—
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/10	—	○	—	○	—	—	—	—	○
7/11	—	—	—	—	—	—	—	○	—

●：感染好適条件 ○：準好適条件

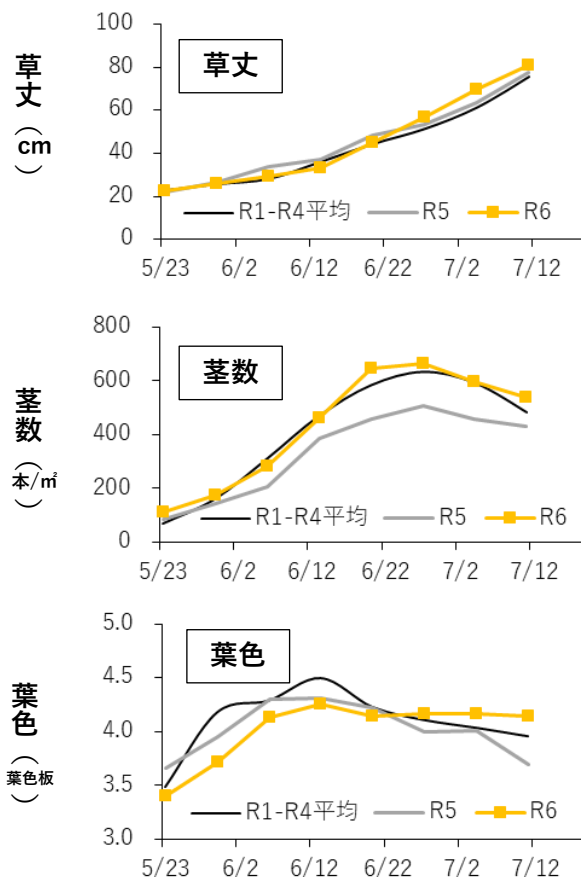
### ○1ヵ月予報 気象庁（7/13～8/12）※7/11発表



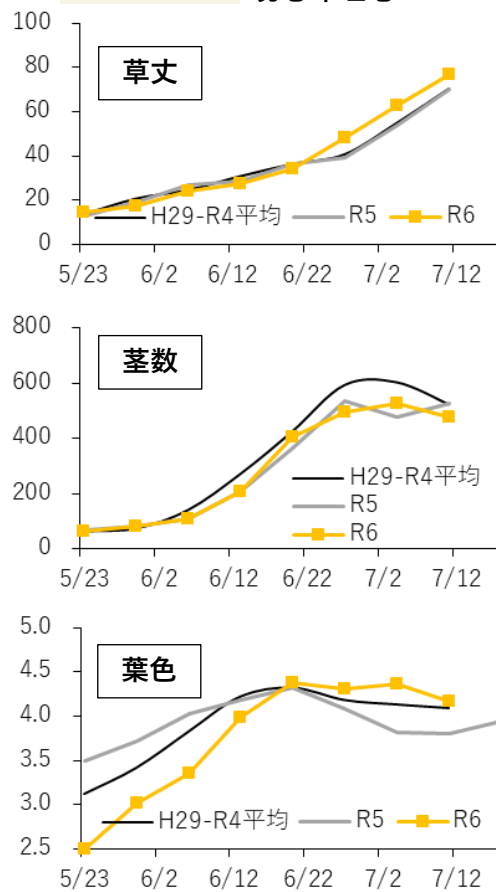
# いちほまれ 生育状況 令和6年7月11日調査

いちほまれ

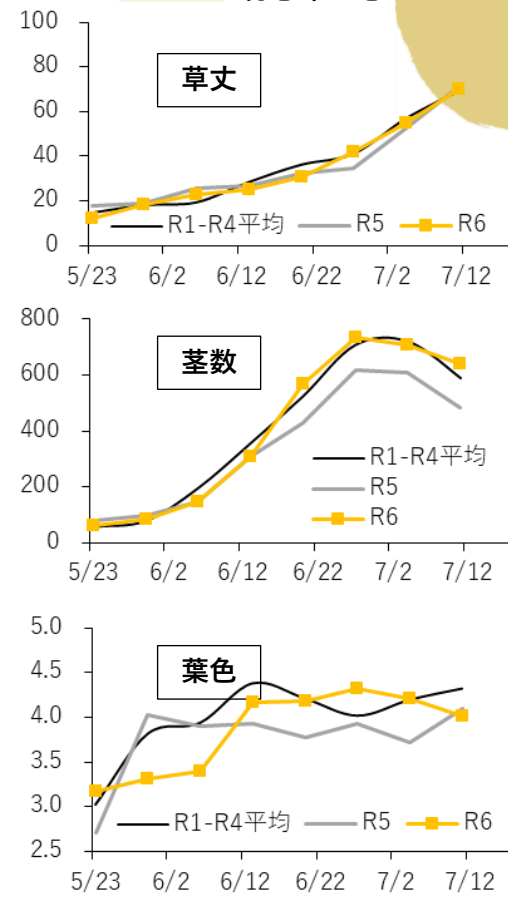
上旬移植 現地 平坦地



中旬移植 現地 平坦地



直播 現地 平坦地

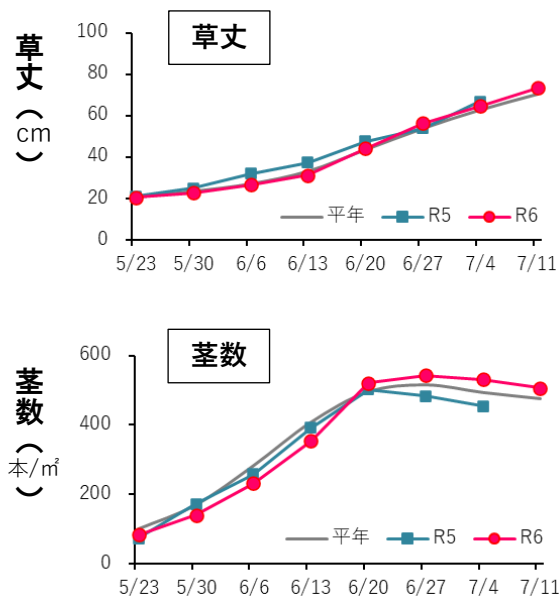


	農業試験場		現地 平坦地			現地 中山間	
栽培方法 時期	上旬移植 5/2	中旬移植 5/20	上旬移植 5/2	中旬移植 5/19	直播 5/5	中旬移植 5/16	直播 5/10
地点数	1	1	7	7	8	2	1
草丈 cm	81.5	67.8	81.1	76.8	70.0	73.0	82.4
茎数 本/mi	716	528	537	479	640	514	680
葉色 葉色板	4.1	3.7	4.1	4.2	4.0	4.7	4.8
幼穂形成期	7/6	-	7/7	-	-	-	-

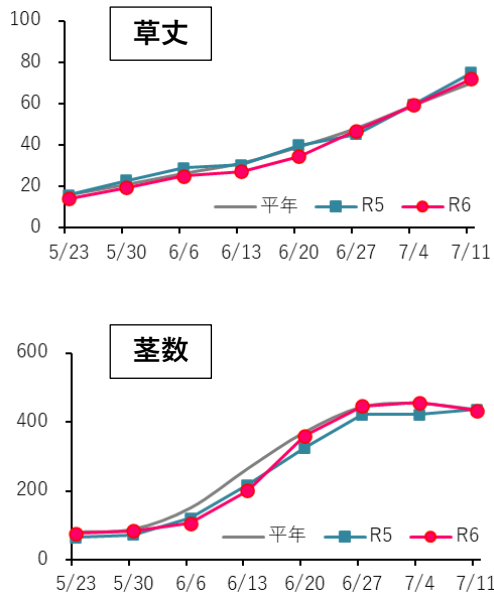


ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかり 生育状況 令和6年7月11日調査

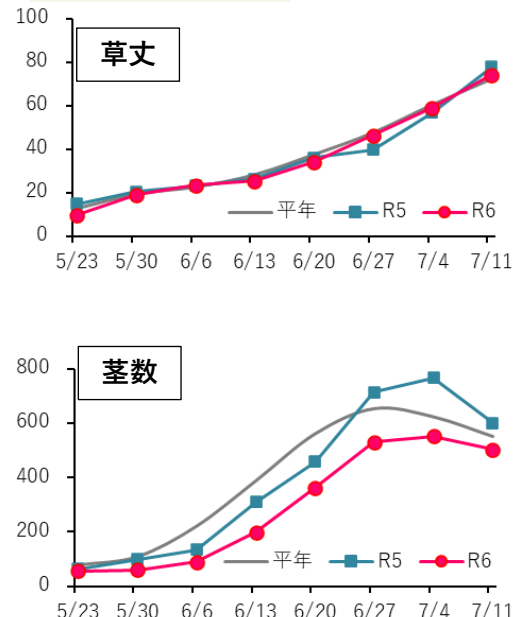
移植 ハナエチゼン 現地



移植 コシヒカリ 現地



直播 コシヒカリ 現地



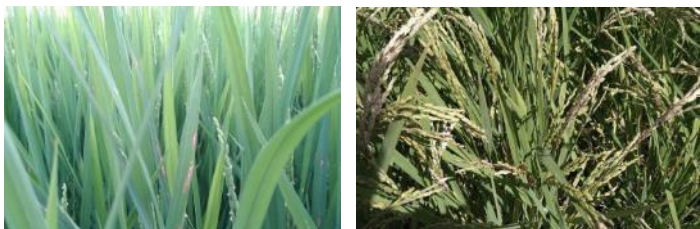
品種		ハナエチゼン			コシヒカリ					あきさかり			
調査場所		農業試験場	JA坂井農場	現地	農業試験場	JA坂井農場		現地 (慣行栽培)		農業試験場	JA坂井農場	現地	
栽培方法 移植・播種時期		移植 5/2	移植 5/1	移植 4/28	移植 5/20	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/18	直播 5/3	移植 5/2	移植 5/20	移植 5/15	移植 5/15
地点数		1	1	8	1	1	1	15	4	1	1	1	3
草丈 cm	本年	80.1	80.9	73.5	74.9	79.6	60.8	72.0	74.0	73.8	62.6	65.9	69.7
	平年	72.2	71.8	70.2	70.9	72.4	74.9	70.2	72.5	69.5	63.0	60.8	67.0
茎数 本/㎡	本年	674	550	507	605	430	449	434	503	780	574	488	548
	平年	537	434	477	476	403	528	437	550	616	551	435	469
葉色 葉色板	本年	4.6	5.2	4.8	4.0	4.6	5.0	4.2	4.1	4.5	4.1	4.8	4.5
	平年	4.7	4.8	4.4	4.0	3.8	3.9	4.0	4.1	4.4	4.3	4.1	4.6
幼穂 形成期	本年	6/26	6/27	6/24	-	-	-	-	-	7/7	-	-	-
	平年	6/27	6/27	6/27	7/12	7/10	7/15	7/11	7/14	7/9	7/14	7/14	7/12

# 出穂期頃の防除

## 穂いもち

### ○液剤・粉剤

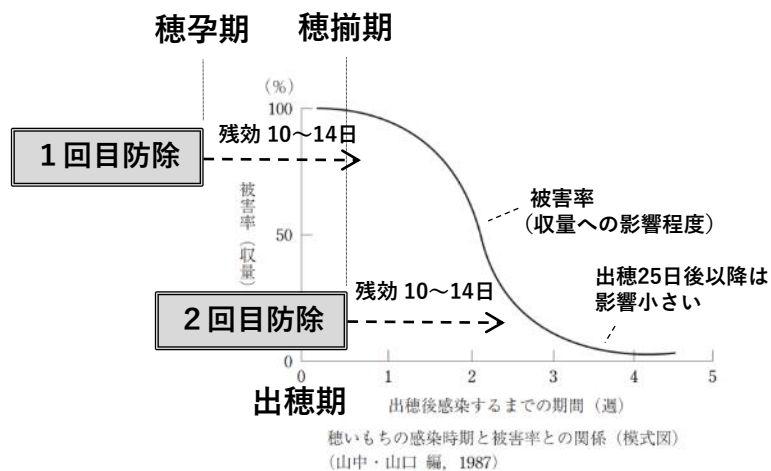
穂ばらみ期～出穂直前と出穂期～穂揃期の2回防除が基本。



いもち病は、出穂時に「葉」から「穂」に感染する

- ・ 1回目防除  
感染予防のため「穂孕期～出穂直前」に施用
- ・ 2回目防除  
1回目の残効が切れる前の「穂揃期」に施用
- ・ 出穂25日後以降の感染は収量への影響が小さい

薬剤の施用基準は  
[病害虫防除指針の35頁参照](#)



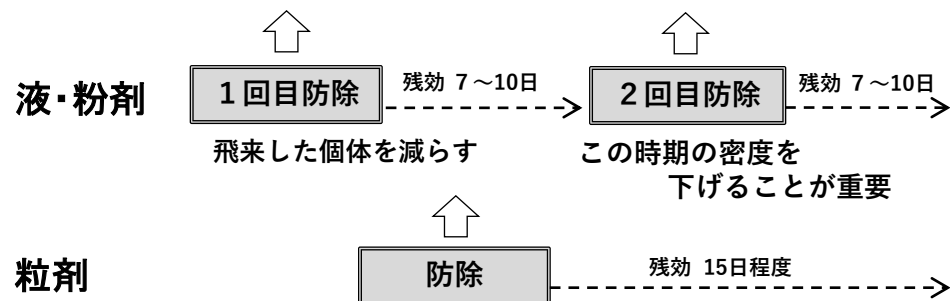
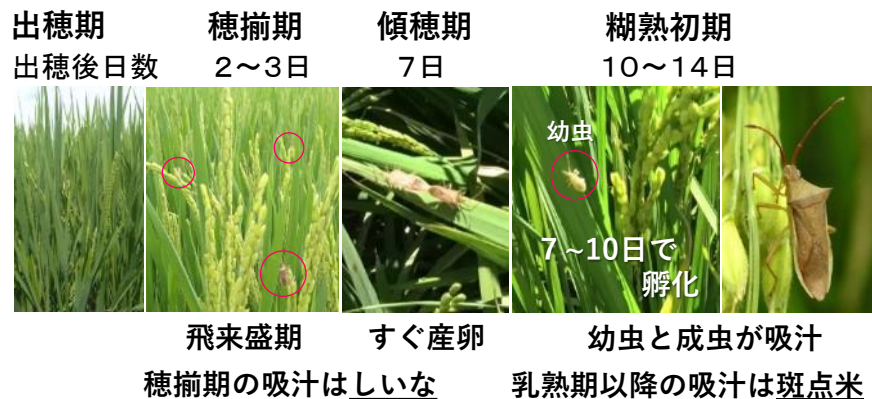
## 斑点米カメムシ類

### ○液剤・粉剤

穂揃期と糊熟初期の2回防除が基本。多発地は3回防除。

### ○粒剤

薬剤によって適期が異なる。 薬剤ごとの施用基準は [病害虫防除指針の39頁参照](#)



- \* 少～中発生地帯におけるジノテフラン粒剤の1回防除
- \* 多発生地域では液・粉剤で2回目の防除をする
- \* 大型のカメムシ [ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ] への効果は弱い  
本県の優占種はカスミカメムシ [アカスジカスミカメ、アカヒゲホドミドリカスミカメ]

### 本県の種類別発生面積

斑点米カメムシ類の種類は  
[病害虫防除指針の49頁参照](#)

